中央电视台电视教育节目用书

日曜日のたのしい日本語

星期日日语

1984

3

369.4
0/7

中央电视台电视教育部编

广播出版社出版

H369.4
20/7

中央电视台电视教育节目用书

星 期 日 日 语

日曜日のたのしい日本語

1984—3（总7）

中央电视台电视教育部编

广 播 出 版 社

星期日日语84—3
〈总第7期〉
中央电视台电教部编
广播出版社出版
外文印刷厂印刷
新华书店北京发行所发行
1984年10月第1版　1984年10月第1次印刷
787×1092毫米 16开 印张4 字数102千字 印数1——19.000册
统一书号：9236·038　定价：0.48元

目　　录

1. 女が職場を去る日（一个女职员的心愿）……（1）

2. 日本の海運（日本的海运）……（30）

3. 彦一とんちばなし（彦一的故事）……（36）

4. 福岡——豊かなあすのために（福冈——为了幸福的明天）……（42）

5. データ通信時代（数据通信时代）……（51）

《星期日日语》每星期日下午三时起由中央电视台第一套节目播送

女が職場を去る日

ラジオの声：関東地方、今日は、北の風日中南の風、晴れ時時曇りでしょう。

（岡三家の台所）

雅子の声：わたしのママの出勤時間は9時30分です。うちを出るのは7時50分で、あと3分です。

繁：これ、またちょっと……。

典　子：ああ、もっと早く言ってくれればいいのに、どこ、どこなの？

繁：いや、このあたりかな。ちょっと違うような気もするけど……、ま、いいよ。

典　子：ここ？

繁：まあ、いやいや、もうちょっと上。

典　子：ここ、はい、ちょっと。

繁：ゆうべはもう……

雅子の声：わたしのママはちょっとおでこ①で、死んだおばあちゃんも少しおでこだったので、おでこ2代というわけ。

典　子：もうひとつ張っとく。

繁：うう、そうだな。……

雅子の声：4年前、ひとり暮らしだったおじいちゃんは北海道を引き上げて、この相模原に来ました。

（家の前）

雅子の声：バス停まで走って3分、あっ、ベルト②忘れちゃったよ。ママ……。

（バス停）

雅子の声：あれで仕事となると人使いもうまいし、企図発想など女としてきれるというのだから、14年のキャリア③はやっぱり才能もだけど、努力の結晶でしょうね、なあんちゃって。

（家の前）

雅子の声：妹のチビを幼稚園に送り迎えするのは、おじいちゃんの仕事です。

繁：どっこいしょっと、ん。

日野基太郎：やあどうも、

日野久子：まあ、いつもお世話さまです。

繁：いやいや。ご病人はいかがですか。

日　野：いやあどうも。あっ、留守中はいろいろと……。

久　子：植木棚もすっかり手入れしていただいて。

繁：いえいえお互いさまです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日　　野：ま、ひとつ自治会のほうもよろしく。

繁：どうせ遊んでいますから……。

雅子の声：日野さんは自治会の会長さん。うちのおじいちゃんが副会長、町のために安い卵を仕入れたり、老人クラブの用をしたりいろいろと働いています。

（登校する雅子）

雅子の声：ママたちは学生結婚で、公団住宅にあたる④まで、わたしは2年間おじいちゃんに預けられていたので、パパが去年、北海道へ転勤して行っても、あんまりわたしは感じないみたいです。

（北海道）

雅子の声：パパもむこうが故郷だし、うちも国鉄の先輩で、6人の子沢山のため高校卒で代用教員になったのです。そのときの教え子にママがいちゃって……北大の心理学科にママが入ったら、三年上の工学部にまたパパがいちゃって……わたしが生まれたというわけ。これが結婚したときの写真。

（結婚披露宴）

森　　井：明。おめでとうと言いたいところだがな、きさま、長男のくせに、養子とはなにごとだ。

明：……

森　　井：きさま、それでも男か、お前は黙ってろ。おい、お前、せっかく自分で大学院までいきながらな、途中で婿入りして⑤、東京に就職とはなんだ。なんたるだらしなさだ⑥。そんなきさまの挫折をな、おれは一生悲しく思うぞ。明、きさまわかるか、おい、止めるな。

繁：明さん、こらえてくれ、高校の恩師としては、あんたにもっと勉強してもらいたかったんだろうが、四角い世の中をまるく生きていく⑦のが人生だな、こらえてくれ……

典　　子：泣かないで、先生。典子が一人娘だからかたしの名字を名のっただけでしょう。それがどうして、男の価値を下げるんですか。先生も、日ごろの信念もって下さい。

（明の代用教員時代）

明：だから、男女ともに人権は平等であるべき。未開の国ならいざ知らず⑧、いまだに結納⑨なんていって、品物と交換に妻をめとる⑩習慣が残っている。嫁をもらうという言葉自体が、女性を物品化している。女の人権を無視している。女性自身がそれを自覚しなけりゃだめなんだ。そして男性もそれを認めて、是正しなければ、相互の人権は保てない。そうだろう。

（札幌⑪・独身寮の食堂）

寮　　母：はい、いってらっしゃい。気をつけてね。

雅子の声：パパは現在、札幌の独身寮に1人割りこんでいるそうです。

明：おばさん、たのむよ。

寮　　母：はい、おはようございます。はい、お待ちどおさま。あ、おはようございます。

（神社の境内）

キ イ コ：あんた札チョン族⑫って知ってる。マコちゃんのパパみたいなのが雑誌に出てるわよ。

雅　　子：なあに、札チョン族って。

キ イ コ：札幌チョンガーっていうの多いんだって。見せてあげようか。

雅　　子：チョンガーって。

キ イ コ：チョンガーってひとりもんのことよ。

雅　　子：ああ、そう。

キ イ コ：いい。東京に本社をもつ花咲建設札幌寮だって。11人のチョンガー部課長に占拠されてるってよ。写真見なさいよ、ほら。休憩室で上半身裸、ステテコ⑬でジャン卓⑭を囲むグループだって、これ、部屋の隅で読書にふける者、寮のおばさんあいてに日用品の物価問題を論議する人……全部転勤者だって。ぱっとしない⑮ね。これ、この寮はもともと独身者用だったのが、いつの間にか単身赴任のおえらがた⑯の根城⑰となった。

雅　　子：うっちのパパは、おえらがたじゃない。

キ イ コ：同じよ。いずれも高校以上の子供をもち、教育のためという理由で、妻子と別居生活。

（東京リサーチセンター⑱）

雅子の声：ママが働く東京リサーチセンターは、日本で初めてできたマーケティング・リサーチ⑲、市場調査の会社です。経済界からも注目されて、設立当時、“入社試験なし、子持ちの女性も採用”という、お産で怠けたママにとってはピッタシカンカン⑳の職場だそうです。初任給㉑も、パパと千円しか違わないので、うらやましがられたそうですが、パパと合計して、一人まえの額になったのだと言います。

（第二企画調査室）

典　　子：フー、4社まわったの、今日は。ハー、機構改革のあいさつして、新任部長の紹介と顔つなぎしながら、今年度の調査計画をあたってみたんだけど……。

山　　崎：どうでした。

典　　子：うーん、大村部長さんとも話したんだけど、各社とも不況でね、官庁関係へ会社の集中がそうとう激しくなってるし、全体の調査費用も少なくなってるし。

勝　　谷：じゃあ、サンプル㉒数も……。

典　　子：減少だしね。調査単価の値下げもふえるんじゃないかって。

山　　崎：うーん。

典　　子：で、どこまでコストダウン㉓できるか、どこまで値下げに応じられるか。

松　　本：問題だわあ……。

山　　崎：頭痛い……。

典　　子：がんばらなくちゃ……。

（電話ボックス）

雅子の声：ママが、この女性第1号の室長として辞令を受けたとき、まだパパは東京の本社づめでした。

（大島建設の玄関）

若い男：岡田さん、奥さんから急用です。

明：ええ……ちょっと、これ頼む。

（土木設計課）

明：ええっ、大変なことって……今どこにいるんだ。公衆電話。ええっ。なに?

（電話ボックス）

典　子：あのね、会社のことなんだけど、んん、もう電話じゃ言えないから、今夜さ、なるべく早く帰ってきて。お願い。ね。

（土木設計課）

明：あ、そう。で……なんだ。

若い男：子供さんが何か……。

明：あ、いや。

（岡田家の台所）

明：おい。

典　子：あ、お帰んなさい。

明：あ、どうしたんだ。なんだ。

典　子：え。ご飯のあとで話すわ。あ、そうだ、お風呂。

明：みんなどうしたんだい。

典　子：マコは宿題やってるし、鈴子はおじいちゃんと2階で……。

明：え、何が、2階でなにが……。

典　子：いいえ。あたし、支度してから話すわ。

明：大変なことんなったっていうからさ、ええっ。

典　子：あのね。

明：うん。

典　子：辞令が出たの、室長の。

明：えっ。あ、そう。

典　子：驚かないの。極力辞退したんだけどね。女の管理職なんか、別にならなくてもいいのよ、ほんとは。第一うまくやれるかどうか、そんな才能あると思えないし……。でしょ。

明：うーん。

典　子：でね、パパの現場のことはあたしもわからないように、あたしの仕事パパもわかりにくいでしょ。あのね。まず、企画折衝から見積りを出して、それの受注が確定すると、調査票の作成、アンケート㉕の集計ね。

明：うん。

典　子：それからそれを分析して、報告書を作るわけ。でさ、あたしのいる調査企画第2室っていうのは、各スタッフ㉖が実査、集計以外の部分を行ってるの。そのほかにね、折衝と見積りの営業階段を、部長とか、室長が行う場合もあるし、そのほかのケース㉗もあるわけ。

明：うまい。

典　子：でさ。いずれの場合でも、相手の会社と、そうとう細かい打ち合わせが必要だし、いろんなつきあいが中心となって、そうとう神経疲労の激しい仕事なのよねえ。

明：うんうん。

典　子：お正月の献立調査㉘とか、和洋・中華・各家庭のデーターそんなものばかりじゃないでしょう。

明：うん

典　子：非行青少年から、競馬場のファンの調査に至るまで、ありとあらゆる注文を、企画から入札㉙まで各社が競争でがんばるわけ。

明：ああ、で。

典　子：それにね。女性を折衝の担当者にしないでくれって、はっきり言ってくる会社もあるの。前からそうなのよ。

明：ああ。

典　子：まあ相当の会社に信用されるまでに大変なのよね。

明：ああ、そう。

典　子：女であるがゆえにハイディキャップ㉚がつくの。

明：うん、だからどうだって言うの。

典　子：困ったって言うの。

明：ああ、そう。

典　子：どう。

明：自信がなきゃ、やめればいいよ。自信なんていうのは、やってるうちにできてくるもんじゃないのか。それにね、世の中一般の男ってのは、そうそう偏見のあるもんばかり、いやあしないよ。女だろうとなんだろうと一生懸命やっていてそれなりにできるものには一目おくもんだよ。

典　子：そう。

明：うん。

典　子：ま、とにかく二人の給料合わせて一人まえっていう段階は終わったんだし、やっと楽んなったところで、あたし、地位なんか欲張ら㉛なくてもいいのよ。

明：それにね。女のわたしにできるだろうかって、そういうコンプレックスはだね……。

典　子：いえ、女とか男とか言うんじゃなくて。

明：うん。いや、しかし職業上の能力は、仕事を通して鍛えられるって、自分の口で言ってたじゃないか。

典　子：言うわよ、言うだけなら。そりゃあ継続することが大切だって信じてるわよ。

明：うん。あ、そう。

典　子：今でもそう思うもん。

明：あ、そう。フフ。うまい。

典　子：あらあ。いち、にい、さん、し。

（日本間）

皆：はい。かんぱーい。

雅子の声：このひとつき後、突然パパは北海道へ転勤となりました。

典　子：うん、今日はうまくいったみたい。

（空地の畑）

繁：どうするっていってもさあ……。とうさんとしちゃあ、おまえがひとり娘だし、明さんについておまえも行くっていうなら、いっしょに、戻ってもいいが。気持としちゃあ、ここへ骨を埋めるつもりで、札幌を処分して来たんだ。また。ノコノコ[32]たたんできた土地へ戻るっていうのも、なんか。

典　子：わかるわ。

繁：割り切れないんだよなあ……。

典　子：そうよね。親せきのみんなとも、お別れしてまできて。

繁：うーん。せん別までもらっといて、またノコノコ帰って行くっていうのもな。

典　子：そうよねえ。

（日本間）

明：じゃまあ、とりあえず1年だけやってみるか。

典　子：マコは春から2年だし、鈴子は来年から小学校だし、やっと子供に手がかからなく[33]なって、おじいちゃんさえいてくれれば心強いし、なんとかやってける[34]と思うの。ここまできてあたし、職をやめるの残念だし。

明：おれだってこの年で独身寮に入るのはつらいよ。

典　子：うん。

明：会社の連中にだって、なぜ家族は来ないんだって言われるだろうしさ。

典　子：わかるわ。そりゃあね、女房の説得ぐらいできないのかって思われて、肩身が狭い[35]でしょうからね。

明：いや女房を働かしてるやつにロクなやつはいないっていう……。

典　子：そうそう。そういう風潮[36]の社会よね。

明：や、女房に頭があがらないで、その振りまわされてるやつにろくな仕事はできないっていう評価がさ。

典　子：一般的だわね。そうそう。

明：……。

典　子：5年なんてすぐだけど。

明：1年だよ、テスト期間としては。

典　子：あら、そう。やってみなきゃ、案外心配するほどじゃないでしょう。

（玄関）

典　子：ちょくちょく[37]こっちに出張あるんでしょう。

明：あのね……。

典　子：はい。

典　子：ああ、羽町に行くの久しぶりね。じゃこれ、お願いします。

明：さ、鈴子、行こう。

繁：さあ、行こうか。

（路上）

雅子の声：あれから小学校へ入学した鈴子が半日で帰るので、ママは学童保育に預けました。おじいちゃんは、首すじの痛みがとれなくて、ずうっとお医者通いで、わたしが妹を迎えに行く役目です。暗くなりかけた道を30分も鈴子１人で帰らせるのは、ふびん㊳だとママが言うし、ママは７時半にならなければ、帰って来れないのです。

（第二調査室）

典　子：はい、東京リサーチセンターです。うん、どうしたの……ああ、今日。あっ、ごめん。きょうこれからね、２社の人と会う約束があるの。去年の暮れにやった仕事でね、ちょっと問題がおきて、こちらの意向を聞きたいって言われているもんだから。もう一つはね、新しい仕事の引き合い㊴で、ま、これは代わってもらえるけど……。

（公衆電話）

繁：おまえも忙しいんだなあ。

典　子：あたしでないとね、部長さんが行かなきゃなんないのよ。ちょっと、そこまで話もってけないし、帰ってからじゃだめなの。

繁：いやあ、老人会の木山ちどりさんがいっしょに行ってえ……くれるって言うんだがね、……タクシーで１人で行けないこともないんだが、初めての大学病院だしな。

典　子：それに、マコ１人あてにもできないし、留守もじゃ、だれか頼まなきゃなんないし……。帰って話すわ。

繁：ううん。子供がこのままじゃかわいそうだ。お父さんも、こうぐずぐずしてたんじゃ困るからね……思い切って検査をさ。

典　子：ここ、ここ、帰りにね、なんとか心あたりを頼みに寄りたいと思ってたの。だから父さん、悪いけど、ね、帰ってから話すわ。

繁：ああそうか。留守番を頼める人があれば安心だなあ。聞いてみてくれよ。ああいいよ。ママも忙しいんだなあ。

（第二企画調査室）

典　子：じゃあ。……ごめんね。

松　本：まだ悪いんですか。お父さん。

典　子：ああ。

勝　谷：これ岡田さん、座談会、来週の月曜日……。

典　子：ええ、あの、ここんとこ仕事がとだえていたから、オーケーしたの。

典　子：はい、東京リサーチセンターです。ああ、はい、やらせていただきます。は、費用がですか。……そちらのプレゼント㊵ですから……４万とおっしゃるんですか。

山　崎：池田ポリエチレン㊶。

松　本：ひどーい。

典　子：はい。調査単価の値下げとしましても……。ハー、そうですか、わかりまし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

た。じゃあ今後のこともございますので、こいで手配しますので、受注確定と考えてよろしいですね。どうもありがとうございました。はい……どうも……。フー、池田ポリ。

山　崎：そこまで値切るなんて。

松　本：ねえ……。

典　子：そいじゃ20代から40代までの主婦、ばらつく㊷ように8人集めて…。

松　本：ふーん。

典　子：でえ、正式の案内状と会場の地図も同封してタイプ印刷㊸ね。

山　崎：いやあ、きついなあ。

松　本：むこうの新しい担当者って、どういう人なんですか。

勝　谷　昇格して張り切ってんだよ。

山　崎：やりにくいなあ。

松　本：点数かせぎってわけね。

典　子：1度会ってくるわ。今後のおつきあいも願わなきゃなんないし…。

松　本：電話1本で値切られたんじゃ……。

田　所：言いなりほうだいだよ。

山　崎：いちんち㊹で下げてくるんだから。

典　子：やり手よ。

山　崎：苦手だな。

勝　谷：岡田さんなら、絶対。会えばね。

典　子：そう太鼓判押さないで㊺よ。あたし弱いんだから、ドキドキし㊻ちゃう。

（病院）

雅子の声：おじいちゃんは検査のため、入院することになりました。

看護婦：お入りください。2番目のベッドです。

繁：どうも。

雅子の声：おじいちゃんは少しでもママに負担をかけまいと、6人部屋を選んだのだとママは言いました。

典子の声：パパとママは若かったし、学生時代の2年間、おじいちゃんに養育費も生活費も助けてもらってきたんだし、……今の相模原㊼のうちもおじいちゃんがうちをたたんだお金でできたんだし、……それでも、娘に迷惑をかけまいとしてる気持が、ママはいたいたしいの。

（自宅の玄関外）

典　子：ママね、きのういちんち休んだから、今日早く行かなきゃだめなのよ。会社が心配だから。

（玄関の中）

鈴　子：まだ早いわよ。

雅　子：……。

典　子：ねえねえほら、竹本さんのおばさんが遅くなったときいいように鍵渡しとくけど、今日は植え込みにありますって、そう言って置いとくのよ。

鈴　子：宝探しみたい。
雅　子：バカだね。
典　子：ねえ、かくすんじゃないわよ。
雅　子：出しといたら見つけてもさ、泥棒に困るじゃない。
典　子：冗談言ってるヒマないのよ。頼むわよ、マコ。
雅　子：来ないんじゃない。だって植え込みにありますって、いつ言うの。
典　子：来るわよ、今。
雅　子：待ってんの。だってもう。
鈴　子：ご飯食べてんだ。
雅　子：忘れてんじゃない。
典　子：さあ、どうかな。
鈴　子：迎えに行こう。
雅　子：ああ。
典　子：ああ、来た来た。

（玄関の外）

竹　本：すいません……。
典　子：じゃ、お願いします。
竹　本：今ね、あのあれがさ、えー、妹から電話がかかっちまって……。
典　子：ええ、あの、とにかくバスが……。いつもと同じ時間になっちゃったね。じゃあ、お願いします。

（第二企画調査室）

典　子：おはよう。
皆：おはようございます。
典　子：おはよう。
男：おはようございます。
典　子：これ。おはよう。きのう。
松　本：ええ、キャンセル㊽ですって。
松　本：ねえ、もう手配全部できちゃってんのに、池田ポリの部長って、おかしな人ねえ。
山　崎：ああ、どうなってんだか、もう。
勝　谷：急に話を持ちこんできたり、断ってきたり……。
山　崎：なんとかほかの製品の座談会にあててもらえないだろうかねえ。
松　本：そうねえ、社外に挨拶状も出しちゃったし……。
山　崎：上手な断り方しないと信用問題だしね。
松　本：調査公害だなんて、きっと社内で言われるわよ。
勝　谷：先方の。だってさあ。
松　本：だけどあたしたちがそう言われるのよ。室長のいない間に、スタッフがへまやった㊾って。
山　崎：コードの欠番が出りゃ。

田　所：まあいちばん社内でいやがられるし……。
松　本：そう。当然われわれのミスとして。
勝　谷：ぐち言ったって、キャンセルされたものは……。
松　本：この前ね、ある人にこう言われたのよ、女が営業に出ると、とれる仕事もとれなくなるって。
勝　谷：それは、営業には成功も失敗もつきものだから。
山　崎：それはどう処理するかじゃないのかな。
松　本：女は営業に甘いから、キャンセルされたなんて、あたしそう言われるの残念だわ。
田　所：弱りましたねえ、今さら手をつけちゃってからじゃあ。
山　崎：理由もなしにねえ。
松　本：なめられてんじゃないのかなあ。
典　子：もしもし。こちら、東京リサーチセンターですが……。

（池田ポリエチレン）

男：いや、……ええ。いや、……だ、ですから、部長が。
金　巻：……ほら。ああ。部長はわたしだ。や、だからね、あれは、もうやらないことにしたよ。なにもう手配したって、……いやいや、なんとかならないね。ええ。

（第二企画調査室）

典　子：日程を延期してもよろしいんですが……。あ、そいじゃあのう、お宅のほかの製品についてなにか……。いかがでしょうか。実はあたくしどもも、手配済みなので、このままキャンセルされますと困るんですが……。
金　巻：だからね、きのう電話したんだよ。今ごろむし返してくるなんて。なに、きのう休んだ。しかしね、君がいなくたって、ちゃんと通知はしといたはずだよ。
典　子：じゃ、あの……出席をお願いしたかたの、謝礼だけでもいただければ、けっこうですから、何か座談会をやらせていただけないでしょうか。
金　巻：今ね、ほかにテーマはないんでね。キャンセルするよ。
典　子：そんなふうに一方的におっしゃられても……。いえ、確認した上で、お願いしてますんですけど。
金　巻：くどいよ。や、女はね、だから……。
典　子：あのですね、じゃあ、この仕事はキャンセルするとしまして、あのう……かかった費用と社員作業費いちんち分だけ、いただけますか。
金　巻：ああ、いいとも。

（第二企画調査室）

勝　谷：どうでした。
典　子：さっそく、断り状を作って出しましょう。まるで下請け㊿かなんか使うみたい。
山　崎：おっかしな人ですね。
勝　谷：便利屋だと思ってるんでしょう。

松　本：で、実費は、出すんですか、むこう。

典　子：わたしも今日、ムカッとしちゃって……。こんなこと、仕事につきものなんだけどね……。気がたってたもんだから。

雅子の声：ママは疲れるとよく、慢性中耳炎が出て、いつも赤信号だと言っています。

（病室）

繁：おまえまた痛むのか。ここでみてもらったか。

典　子：うん。

繁：会社はいいのか。

典　子：ああ、午前中休んで、今日は午後から、会う人の都合で。

繁：大変だなあ。なるべく早く帰ってやることだ。すまんなあ。休まんでも痛みはがまんできるか。

典　子：手術しなくちゃだめだって言われた。また、でも、2人で枕並べて[51]るわけにいかないでしょう。

繁：ウフ。

典　子：しばらくようすみるわ。

繁：うん、からだに気をつけてくれよ。子供たちは。

典　子：うん、元気でやってるから助かるわ。

繁：ふーん。パパに知らせるなよ。よけいな心配するからなあ。検査の結果がわかるまではな。

典　子：うん。あっちも忙しいし、もうすぐ連休だから。

繁：んん、運賃だけでも大変だよなあ。

看護婦：岡田さん……。

典　子：ちょっと。

（小会議室）

武　井：実は、岡田さんの病状では、この、わたしどもグループでも、いろいろこの議論が分かれとりましてねえ。とにかく、ちょっと、これごらんください。ここんところがぼやけ[52]てますねえ。こうぼやけてずっと曲がっているでしょう。ここに何かありそうなんですねえ。

典　子：何かって……。

武　井：腫瘍です。ま、しかし、これがどこから転移したものか、あるいは、ここに独自にできたものか、そのへんが、まだはっきりしないんですねえ。

典　子：あの、近ごろ、首だけじゃなくて、左手も痛みだして……。

武　井：うーん。

典　子：それじゃあのう……ガン[53]かも……。

武　志：ま、一応、ガンと考えてもいいでしょう。ま、しかし、いろいろ、内科の検査をした結果、あのう、転移したもんじゃなさそうなんですねえ。ま、かといってここに原発するということも、あまり症例がないわけでね、その辺がその議論の分かれてるとこなんですよ。ま、そこで手術をしてみようということとんなったんですが、ご家族としては、いかがですか。

典　子：あの……く、首のですか。

武　井：そうです。ま、開いて見ればね、悪性の腫瘍か、つまり単なる骨の病気なのか、ま、それとも、ま、ガンとしてもですね、どこから転移したものかってこともはっきりします。

典　子：そうすれば、治療の方法がたつわけですか。

武　井：ま、そういうことですね。

典　子：で、あの、どこから転移したかわかったとして、あの、どうするんですか。手術、するんですかまた。

武　井：ま、岡田さんの場合はご年輩ですから、からだが耐えられないでしょう。ですから、ま、薬でおさえるとか、ま、放射線あてるとか、そういうことんなると思います。

典　子：で、あの、……悪性か、悪性でないかという比率は……。

武　井：まあ、七、三ですねえ。

典　子：七割……。

武　井：ま、しかしね、三割はこの良性の場合もあるんですから。……われわれも懸命にやっていますし、昔のようにね、すぐ死に結びつくっていうこともありませんから、お気落としのないように……。ま、とにかく、ご本人には、骨のとける病気って言ってありますから、ま、あなたも、そこをくれぐれもご注意なさって、ご本人に、気どられないようにして下さい。そいじゃ。

典　子：あ、どうもありがとうございました。

（東京リサーチセンター）

典　子：池田ポリはどういう話でした。

大　村：ああ、いや、実にいやな話でねえ。担当者の仕事にクレーム[54][54]がつくのはよくあることだし、いつもその調整にわれわれは苦労するんだけども、室長が窓口なのを変えろというややこしい話でねえ。いや、今度の仕事は、こっちにミスがあったわけじゃなく、むしろむこうに非があったとぼくは思うんだよ。いやそれに、こっちの人事にまでくちばしを入れ[55]られるということんなるとぼくとしては受け入れられない。長年のつきあいなのに新しい部長に、窓口を変えてくれ、男の方がいいと言われてもねえ……。

典　子：前の先方の部長さんは、博多[56]にいっしょに出張したことがあって、気心がわかっていたんですが、今度のかたは……。

大　村：……ま、過ぎたことは……。

典　子：気短だったかもしれません。あたくしも少し、キャンセルにあせりすぎて……。

大　村：ああ。ハッハッ。しかし弱ったねえ。

典　子：人事の口出しなんて、こちらももめないで、あっさり変えたらどうですか。たぶん窓口を変えさせたということで、むこうも仕事を出さないわけにいかないと思います。

大　村：うん。

典　子：男の人がよければ、山崎さんか勝谷さんでも……。彼なら柔軟性がありますし、勝谷さんなら、誠実に処理しますし。どちらもうまくやりますから。

大　村：うん。

典　子：でも、こんな失敗、初めてです。あたしも反省しています。たった4万の仕事で、出入りの差し止めをくらうなんて、申しわけないですから。

部　長：まあ新しいとくい先の開拓もだが、できるだけ、長続きさせるのが先決だから。

典　子：ええ。もちろん、続けていただいたほうが……。そのほうが大切ですから……。

松　本：はい、東京リサーチセンターです。ちょっとお待ちください。岡田さん。

典　子：はい。

松　本：電話です。病院から……。

典　子：どうしたの。ねえ。なんかあったの。

（病院の電話口）

明：いや、ちょっと仕事で来たもんだから……。うちへ電話したら、近所のおばさんがでて、おじいちゃん病院だっていうもんだから……。

（第二企画調査室）

典　子：じゃあ、今夜はうちへ帰れるのね。

明：いや、遅くなるのか。ちょっと話したこともあるんだ。じゃ……。

（病室）

明：いやあ、おじいちゃん。全くひどい目にあい[57]ましたねえ。

繁：ううん、手術が延期になったって言われたが、早くさっぱりしたほうがいいんだよ。その方が楽だ。ううん。

明：脳外科の話じゃ、首の血管が癒着してるんじゃないかって。そうだと、手術は急がないほうが……。

繁：うん、ああ。

（洋間）

典　子：じゃあ悪性じゃないのね。見通しが明るいわけ。

明：おお。脳外科の意見だとね、癒着のために、血管がよじれてるかもしれないんで、血管造影をやって、よく確かめるって言ってくれた。だから、よろしくって頼んできた。

典　子：そう。じゃ、来月の10日あたりにのびたのね……。

明：おい、鈴子。あした朝、早いんだろ。もう寝ろ、な。

鈴　子：いやあ。

明：どうしてえ。

鈴　子：パパ、今日はね、おじいちゃんの植木棚にね。

明：うん。

鈴　子：オレンジ色[58]のちょうちょが来たよ。

明：オレンジ色。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com